



シリーズ「新型コロナウイルスに負けるな！」

努力の壺

= 努力を続ける勇気を与えてくれるお話 =

10月の全校朝会で「努力の壺」の話をしました。

「お母さん、努力の壺の話、またして。」「ウンいいよ。今度はなあに。」「逆上がり」「あらあら、まだいっぱいになっていなかったのね。ずいぶん大きいねえ。」と、言いながら、お母さんは椅子を引いて、私の前にすわりました。そして、もう何回もしてくれた努力の壺の話をもたゆっくりと始めました。 【出典：「子どもを変えた“親の一言”作文25選” 明治図書】

目標を達成するためには努力を続けることが大切です。しかし、それを難しくさせる原因が、どのくらい努力したらできるようになるのか、誰も分からないことです。いくら頑張っても成果がでないと、「頑張ってもどうせ無理だ」とあきらめてしまいがちです。もしかしたら、あともう一回だけ頑張って努力したら、できたかもしれないのに・・・。

「努力の壺」というお話は、小学校1年生（当時）の角野愛さんが、お母さんから聞いた話を基に書いた作文です。（朝日全国小学校作文コンクール入選作）

とても素敵なお話なので、全文を紹介します。

それはこんな話です。

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から努力の壺をもらいます。その壺はいろんな大きさがあって、人によって、時には大きいやら小さいのやらいろいろあります。そしてその壺は、その人の目には見えないです。でも、その人が壺の中に一生懸命「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつかその「努力」があふれる時、壺の大きさが分かるというのです。だから休まずに壺の中に「努力」を入れていけば、いつか必ずあふれる時が来るのです。



わたしはこの話が大好きです。幼稚園の時、初めてお母さんから聞きました。その時は、横ばしごの練習をしている時でした。それから一輪車や鉄棒の前回り、跳び箱、竹馬。何でもがんばってやっている時、お母さんに頼んでこの話をしてもらいます。

くじけそうになった時でも、この話を聞いていると、心の中に大きな壺が見えてくるような気がします。そしてわたしの「努力」がもう少しであふれそうに見えるのです。だからまたがんばる気持ちになれます。

お母さんの言うとおりに、今度の逆上がりの壺はずいぶん大きいみたいです。逆上がりを始めてから、もう2回もこの話をしてもらいました。でも、今度こそ、あと少しで、あふれそうな気がします。だから、明日からまたがんばろうと思います。

お母さんは、「壺が大きいととても大変だけど、中身がいっぱいあるからあなたのためになるのよ。」と言ってくれるけど、今度神様にもらう時は、もう少し小さい壺がいいなあと思います。 【出典：前掲書】※実際の文章のほとんどがひらがな表記なのですが、漢字に変換しました。

壺の大きさは分からないし、同じ目標でも人によって大きさが違います。

「100回練習すれば突破できる壁があっても、99回であきらめてしまう人がいる。その人は今までの努力にかけてきた時間が無駄に終わってしまう。」と、元プロテニスプレーヤーの松岡修造さんは言っています。

「努力の壺」のお話は、あともう1回を頑張るための勇気を与えてくれるお話です。

私がこの話を知ったのは20年位前なのですが、もし、小学生の頃に知っていたら、おそらく違った考え方や生き方をしていたのではないかと思います。悔やまれました。

ご家庭でも折に触れ、お子様はもちろん、兄弟姉妹のお子様方へ、ぜひ「努力の壺」のお話をして（読み聞かせて）あげてください。 （校長 笠井 猛雄）